

地理歴史科単元計画（地理探究）

授業者：東口匡樹

対象（場所）	2年3組地理選択生（選択教室2）	令和7年11月14日 （金）5限目
単元名	第4章 人口、村落・都市 2節 人口問題	
単元の目標 （単元で育成する資質・能力）	<p>ア 次のような知識を身に付けること。 （ア）人口、都市・村落などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現すること。</p>	
教材	地理探究（東京書籍）、ICT端末、新詳高等地図（帝国書院）、complete 資料集	

具体的な評価基準（課題発見力・創造的思考力）

6つの力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度
S 未来を構想する	人口・人口問題の特徴や分布、現代の状況を理解した上で、今後の人口問題の構造を考察する。	現在の人口・人口問題の課題を転用して、現在見られない新たな課題を見つけ、課題解決に向けて構想できる。	自分ごととして未来の課題を見つけようとしている
A 利他的に概念を使う	人口・人口問題の特徴や分布、現代の状況を理解した上で、現在の人口問題の構造を知る。	現在の人口・人口問題の課題を転用して、現在の別の地域の課題を見つけることができる。	自分ごととして、地球的課題を見つけようとしている。
B 利己的に概念を使う	人口・人口問題の特徴や分布、現代の状況を理解した上で、自分の身の周りの課題を見つける。	現在の人口・人口問題の課題を転用して、自分に関する課題を見つけることができる。	自分ごととして身の周りの課題を見つけようとしている
C 知るのみ	人口・人口問題の特徴や分布、現代の状況を理解できるが、課題を見つけられない。	現在の人口・人口問題の課題を転用して、別の課題を見つけることができない。	自分ごととして課題を見つけようとしていない。

本質的な問い

先進国の新たな人口問題は何かあるだろうか。

単元計画

時	学習内容	評価内容と方法	知識・技能	思考判断表現	主体的態度
1	(1) 人口分布と人口増加 (2) 人口動態と人口ピラミッド	【評価内容】 (1) (2) の傾向性・規則性を理解し、概念化できているか。 【評価方法】 提示された問いに対し、板書する。	○		
2	(3) 人口移動	【評価内容】 (3) の傾向性・規則性を理解し、概念化できているか。 【評価方法】 提示された問いに対し、板書する。	○		
3	人口問題 (1) 発展途上国 (2) 先進国	【評価内容】 人口問題の傾向性・規則性を理解し、新たな課題を見出せるか。 【評価方法】 (1) 提示された問いに対し、板書する。 (2) 過去問に取り組む (3) 新たな問いを見出す。	○	●	○

○見取り・・・見えるもの 生徒の変化など

●評価・・・見るべきもの＝形成的評価 抽出・直感で可

◇評定・・・説明責任にも活用 記録に残す評価 根拠

授業指導案					
本時の目標 (3/3)	人口問題の傾向性・規則性（概念）を理解して、新たな課題を見つけられるか。 またその課題解決に向けて構想できるか。				
本時の流れ			評価方法 ○見取り ●評価		
過程	学習活動	指導上の留意点	知識・ 技能	思考判 断表現	主体的 態度
導入 (1) 2分	事前に視聴したビデオに対する回答の確認	各個人の理解度を見る。	○		
展開 (2) 8分	(2) 発展途上国、先進国の人口問題の問いの回答を板書する。	(2) グループ活動に主体的に参加しているか見取る。板書の内容を全員ですり合わせ、 <u>概念化（抽象化）する。</u>	●		○
(3) 15~20分	(3) 先進国の新たな課題を見出す。	(3) これまでの概念を活用させる。今後の社会課題解決構想の問いでも可とする。解決を構想する際、Chat GPTの利用も可とする。が、鵜呑みにせず、なぜその回答が良いか、概念をもとに根拠を説明できるようにさせる。		●	
(4) 10~15分	(4) 概念を転用して、過去問の解説を作る。	(4) 問題が解けることより、概念を活用して、社会課題に転用（具象化）できていることが重要であることを伝える。		○	
(5) まとめ 15分	(5) 先進国の新たな課題についてグループごとに発表する。	(5) 概念を転用して具象化し、新たな課題発見力が身についたことを認識させる。また生成AIの活用について考える機会とする。		●	○

○見取り・・・見えるもの 生徒の変化など

●評価・・・見るべきもの＝形成的評価 抽出・直感で可

◇評定・・・説明責任にも活用 根拠